

【下市田 2 区】 令和 7 年 8 月 21 日開催

番号	担当課	項目	分類	質問・意見の要旨／アンケート	回答などの要旨 ※追記部（→）
1	産業課	農地の保全と活用	質問	下市田河原にある遊休荒廃農地について、農地所有者が適切に管理をしないため、雑草が繁茂している場所がある。害虫（カメムシ）の生息地になったり、交差点の見通しが悪くなったりして困っている。下市田河原耕作者組合としても営農支援センターゆうきに相談し、農地所有者へ草刈りを実施していただくよう動いているが苦戦している。他の地域でも借り手や耕作されない農地が増えているが、この問題について、町ではどのくらい把握していて、どのように対策をしているのか教えていただきたい。また、耕作放棄地は私有財産のため、所有者の同意なく他人が勝手に草刈りをすることができない一方で、多くの自治体では空き地の雑草繁茂防止に関する条例や環境美化条例があり、所有者に勧告し、応じない場合に行政代執行で草刈りをして、費用を所有者に請求できるという仕組みがある。高齢化が進み、担い手が不足するため、町として条例を作れないか。	当該農地については、産業課と営農支援センターゆうきでも承知していますので、近日中に農地所有者に対して適正な管理を依頼します。条例については、町民の総意として必要だと判断するのであれば、町で制定すべきだと思いますが、どのような影響があるかこれから研究が必要です。宅地の空き地については条例で定めている自治体もあります。また、森林や農地の適正な維持管理について条例で定めている自治体もあります。現時点で農地に対する条例は把握していません。まずは、下市田河原耕作者組合で、困っていることについて議会へ陳情等を行っていただくと、課題について多くの町民に共有できるかもしれません。町全体でなんとかしていくという雰囲気づくりも大切です。
2	産業課	農地の保全と活用	意見	遊休荒廃農地所有者への依頼は、今までのやり方ではなく、河原組合の規約を耕作放棄している人に対して厳しくするのもありだと思う。	町としては業者を紹介したり、管理してくれる人に対してお金を支払ったりというやり方もありますが、基本は所有者が費用を負担すべきと考えています。
3	環境水道課	環境保全	意見	アレチウリは、花が咲いて種が出る前に刈らなければいけない。町ではすぐに対応してくれた。町道に出たアレチウリは町で管理していくべき。年 3 ～ 4 回刈るとなくなってくる。条例を制定してもよいのでは。	アレチウリは、上段の方が繁茂するようになってきています。下市田河原は、皆様のご協力のおかげで減少しています。具体的な対策は今後検討していきます。
4	総務課	自治組織	質問	今日の資料に財政状況は載っているが、人口の情報が載っていない。減少しているはず。人口減少対策はどのように考えているか。また自治組織の加入率を上げるために町ではどのようなことを行っているか。	確かに人口はだんだん減っていますが、人口減少率で見ると、高森町は全国的な水準より維持ができています。ただし、大学進学に伴い転出した町民がリターンしているというより、飯田下伊那地域の他市町村からの転入者が多く、飯伊地域全体では人口減少が深刻です。高森町だけでなく、エリア全体で考えていくことが大切だと思っています。高森町を選んで引っ越してきてくれるのはありがたいですが、自治会に入っただけでない若い方が多く、消防団の加入率も低い状況です。若い人たちには自治会の草刈りを「する」ではなく「させられる」、組合費を「納める」のではなく「取られる」という感覚があるようです。自治会も時代にあった変化が必要であり、区長会と一緒に検討しています。
5	総務課	自治組織	意見	下市田全体の加入率は 51 パーセント。2 区 4 区は比較的加入率は高い。コロナを境として年々加入率は下がってきている。50 パーセントを切ってくると思う。	現在の自治会を一度解散して全員が強制的に自治会に加入し、町で組合費を徴収する仕組みもあり、全国ではすでに自治会として成り立たないことからそのような例もあります。その場合、地域の活性化をしていくためには自主財源を稼ぐ努力をしていただく必要もあります。高齢者タクシーや道の駅の運営することで自主財源を稼いでいる先進事例もあり、町予算の執行も今までのように地区ごとに順位を付けていただくのではなく全体で付ける必要があるので、その役割を議員に担っていただきたいと思っています。
6	教育委員会	社会体育	質問	高森中学校の部活動の地域移行について、今どのような状況か。	地域移行によって先生が部活動を教える時代ではなくなりますが、部活の顧問をしたくて教員になった先生もいる中で、先生たちとの話し合いをしています。スポーツは素人が教えるのは危険なため、今年度より指導者を育成するプログラム（指導者資格を取得する際の補助制度）を開始しています。また一部の部活では地域移行の実証も行っています。飯田下伊那地域や北部地域全体で指導者を確保することで、子ども達に部活動の選択肢を広げるやり方も方法の 1 つです。吹奏楽については子ども達から相談を受けた経過があり、「どんな指導者が必要なのか」「何を目指していくのか」「どんな練習をしたいのか」を自分たちで話し合ってもらい、その様子を教えてもらいたい旨伝えています。町としては子ども達のニーズに合わせた指導者を探していきたいと思っています。

【下市田 2 区】 令和 7 年 8 月 21 日開催

番号	担当課	項目	分類	質問・意見の要旨／アンケート	回答などの要旨 ※追記部（→）
7	総務課	町民活動の支援	意見	まちづくり活動支援事業について、町から補助金をくれるので、女性のグループを作ってはどうかと投げかけたが集まらなかった。やればありがたいけど、言い出しっぺの方の荷が重くなってしまう。現在は 60 代も夫婦で働いている時代。この事業の申請手続きなども、気軽にできたりするとよいのかなと思う。	女性の会もまずは 1 年に 1 回でもいいので、実現することが大切だと思います。1 パーセント補助金については町民税を原資とした補助金であり、補助申請についてはきちんとした手続きが必要になります。申請は町の担当課と地区担当職員がお手伝いします。
8	総務課	多文化共生	アンケート	最近外国の方(技能実習生)が増えており、町内でもよく目にします。集団でアパートに住んでいるようですが町としてどの程度理解していますか。ゴミの出し方、交通ルール他全国的には様々なトラブルが生じています。気持ちよく共存していくためにルール等の啓発が今後必要になってくると思います。	町内の企業にも技能実習生が増えてきています。企業が確保したアパートや住宅で生活されています。転入の際には企業の担当の方も一緒にいらっしゃいますので、ゴミの出し方なども説明しています。生活習慣が異なり、全国でも課題がニュースになることもありますが、企業側も実習生のサポートに取り組んでいます。外国籍の方も暮らしやすい町となるために、ゴミ出しアプリの多言語化なども研究してまいります。
9	教育委員会	歴史・文化	アンケート	松岡城址については整備がされていますが、山吹陣屋跡についても同様に整備していただくとよいと思います。	山吹陣屋跡の整備については、まずは現場の状況を確認します。
10	建設課	河川の維持管理	アンケート	毎年 6 月実施の河原草刈り作業、作業者の高齢化に伴い町負担でお願いしたい。参加人数が少なく残念、感心がうすい。	全町一斉河川清掃の今後のあり方については、10 月区長会においてご議論いただきます。この結果を踏まえて検討していきます。
11	教育委員会	歴史・文化	アンケート	町の文化財指定が近年少ない。町内には文化財指定されていて当然という物件もある。（大島山の石仁王、戒壇不動不動明王、本棟造民家、古御家吉田南城・吉田城山城等の城跡、遺跡からの出土品等々）本棟造民家は重文(国)の竹内家住宅があるが、高森地区を代表する特徴的な本棟造民家を数棟文化財指定の道を探してほしい。観光資源になる可能性がある。	ご提案ありがとうございます。文化財調査委員会では文化財指定候補になり得る文化財を随時リストアップしています。その後、文化財調査委員会で指定に向けて所有者や地域と検討・協議していく流れとなります。ご指摘のとおり、文化財を観光資源として PR している事例はたくさんございます。今後も、その点も視野に入れて、文化財保全・活用を進めてまいります。
12	産業課	治山管理	アンケート	子どもたちに山に登ってもらいたい。かつてのような遠足、集団登山でなくても希望者による登山体験をさせたい。信州の最大の財産は山ですから、信州に生まれ育って山に登ったことがないのはさみしすぎる。	高森町の子供たちが、身近な山を知り、登山する機会を設けることは、有意義なことと考えます。登山を担っていただく人材や安全面等も考慮しながら事業として計画することができるか研究してまいります。
13	総務課	消防・防災	アンケート	各学校、役場関係施設に防災の面で井戸を掘ったらいと思う。	現在で町はトイレ・食事・ベッドの確保を優先して取り組んでいます。多様な防災対策の一つとして井戸の確保は有効だと思います。今後の防災施策を進めるうえで参考にさせていただきます。
14	産業課	リニア関係	アンケート	リニアの進捗状況を資料に入れてほしい。	今回の町づくり懇談会は 4 つの共通テーマに資料を提供して懇談させていただきました。資料の提供方法は懇談会に限らず、J R 東海に相談しながら対応を考えてまいります。
15	総務課	自治組織	アンケート	各自治会の子どもの資料を作ってはいかが？	町では「地域人材教育」を人づくりの柱として高森町の子供が地域のことを知り、学び、愛着を持ち、将来地域づくりに多様な形で関われることを目指し、学校現場や地域の皆様、事業所の協力を得ながら取り組んでいます。ご提案も参考にさせていただき、現在の自治会パンフレットを住民誰もが解りやすい資料となるような改善に努めてまいります。